新潟大学理学部同窓会

会報

第16号　2015.08.10

理学部同窓会25周年記念号

「理学部同窓会25周年記念事業」を開催！　記念式典・講演会・祝賀会、記念植樹、会員名簿

新制「理学部同窓会」25周年に想う

理学部同窓会会長　野　本　憲　雄

「向う三軒両隣」という言葉も死語になりかけ、江戸後期の式亭三馬の滑稽本にある「向う三軒両隣の付き合いをしらねへとんちきだ」が珍しくもないご時世です。けれども、災害など大きな出来事があるとしきりに「絆」という言葉を耳にします。大きな困難に遭遇すると、私たちは、ハッとわが身の非力さ・無力さに気付き、「人はやはり一人では生きられない。力をあわせなければ」と本能的に感ずるのかも知れません。

私が学生の頃までのわが国は敗戦からの復興途上の時代で、まだ貧しく、困難な時代でしたから、地域にしろ、勤労者にしろ、学生にしろお互い共通の、力を合わせて取り組むべき課題も多く、社会の結びつきも強かったように思います。しかし、その後、先人のご努力のお蔭で国力がつき、世の中が豊かになるにつれて、人と人との結びつきは急速に弱くなってきたように感じます。競争社会の到来で人様のことなどに係わっている暇がなくなってしまったのかも知れません。また、“望めば叶う”時代になり、課題が個人化し、分散化したためかも知れません。

理学部同窓会の歩みも御多分に洩れないようです。卒業生が少なかった発足直後の同窓会は結びつきが大変強かったとお聞きしています。しかし、卒業生が増加するにつれて、理学部同窓会もいつしか「学科ごとの同窓会」へと変質して行ったようです。こうした変化の中にあって、やはり「学部全体としての同窓会」は大切ではないかという機運が生まれ、第１期卒業生を中心とする先輩諸氏が「理学部同窓会の一本化」に向けて精力的に努力され、25年前に新制「理学部同窓会」の発足にこぎつけられました。発足を成し遂げられた先輩諸氏に、改めて深甚なる敬意と感謝の意を表します。

同窓会は、かつて同じ場で学んだ、いわば「同じ釜の飯を食った」仲間が、お互いに来し方を想い、旧交を温め、元気と刺激を貰い、与え合うとともに、いま、そしてこれから同じ場で学ぶ若者のためにいささかなりとも力になりたいとの想いから成り立っているのではないでしょうか。何の利もない集まりかもしれませんが、微力ながらも社会の発展の礎である人を育てる教育にささやかなりとも貢献をし、人と人との繋がりを大切にすることは、世の中がどのように変わって行こうとも大切なことではないでしょうか。

どのような集まりも何の努力もしなければ、ばらばらになって行ってしまうのが自然の成り行きです。25周年の節目に、改めて同窓会に関心を持って積極的に係って頂き、同窓会がますます発展していくようにと願っています。

理学部の近況 ―社会との関わりから―

理学部長　松　尾　正　之

私たちの理学部を牽引されてきましたいわゆる団塊の世代に属される先輩諸先生のご定年退職がひと段落し、各学科とも新たな体制で落ち着いて教育研究に取り組みたいところですが、このところ、なかなかそうもいかない状況が続いています。

政府が打ち出している大学改革は、大学を分類した上での運営交付金の重点配分、大学ガバナンスの改革、センター試験に代わる新テストなどの入試改革など、いずれも国立大学の運営の根幹に関わるものです。理学部も大きな影響を受け、予算等で厳しい状況のなか、新たな対応を迫られているところです。

一方で、理学部を発展させるため、私たち自ら、主体的な取り組みも進めてきました。一端を紹介します。ひとつは、「理学部キャリアフォーラム」です。これは、理学部の学生・大学院生と県内の企業・公的機関等を結ぶ新しい仕組みで、大学院自然科学研究科教育研究高度化部門の宮下教授を中心に平成25年に立ち上げました。現在、40を超える企業等に参加していただいています。インターンシップの仲介、企業人による講演会、参加企業と学生の懇談会の実施などの活動により、学生の意識改革も大きく進んでいるようです。インターンシップ参加者が大幅に増加し、また、社会状況も手伝い昨年度末は学部生の就職率が100％となりました。

地域社会と理学部の関係強化に関しては、県内教育界との協力も進めているところです。県教委とともに進めている「新潟県高校生理数トップセミナー」事業、県内各高校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業への参加などは、10年に近い蓄積となっています。科学技術振興機構の支援をえて実施した「未来の科学者を育成する新潟プログラム」では、高校生だけでなく小中学生まで対象を拡げました。参加生徒にも好評で、事業の継続を計っているところです。

大学改革とあわせ理工系人材の育成が言われています。私たちは、現に理学部に入学してくる学生にとって何が重要かを問い続ける必要があると考えています。その際、新潟大学理学部が根ざしている地域、卒業生を送り出す企業等との連携も不可欠です。これらの点に関して、理学部同窓会の皆様には、これまで以上のご支援、ご協力をお願いいたします。

理学部後援会より

後援会会長
佐　藤　美　樹

理学部同窓会会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より後援会の活動に暖かいご支援をいただきありがとうございます。

日々変動する社会情勢の中、学生たちは社会で活躍されている先輩方の後姿を追いかけるべく先生方の熱いご指導のもと、勉学や専門分野の研究に励み充実した学校生活を送っております。そして不況と言われる現代で、個々が新潟大学生としての誇りを持ち、将来どのように社会貢献するのかビジョンをしっかりと描き就職活動に臨んでいると伺っております。

ローマは一日にしてならずと申しますが、キャンパス内で気持ちの良い挨拶を行ってくれる学生に会うたび、諸先輩方の築かれてこられた伝統と、社会的信頼の大きさを感じます。このような宝物を学生一人一人がしっかりと受け継いでいけるよう、後援会としましても出来る限りの応援を行っていくつもりでございます。

これからも、同窓会会員のみなさまの一層のご指導と後援会のご支援をよろしくお願いいたします。

全学同窓会からのお知らせ

❖ 創立10周年記念事業

本年、全学同窓会は10周年を迎え、10月24日㈯には記念行事（記念講演会、記念式典、祝賀会）が開催されます。詳細については全学同窓会HP、広報紙「雪華」等を通じて案内される予定です。このほか、10周年記念として、キャンパスをリアルタイムで映すライブカメラ、筋力トレーニング機器類を大学へ寄贈する予定です。

❖ 雪華支援事業について

「新潟大学の発展と社会への貢献に資する」という全学同窓会の運営理念に合致する事業を支援するため、2008年度から公募型の雪華支援事業（１件あたり50万円以下の助成）を実施しています。2015年度も８月21日を締切とする公募を行い、総額350万円を助成いたします。なお、これまでの採択事業の詳細は全学同窓会HPに公開されています。

❖ 賛助会費納入のお願い

前述の「雪華支援事業」の予算は同窓生からの賛助会費を原資としています。応募件数は年々増加しており、採択された事業（2014年度は21件）は、母校のブランド価値の向上、好感度アップにも貢献しています。事業拡大のためにも賛助会費の納入をお願い申し上げます。

首都圏同窓会と私

首都圏同窓会の近況

地質鉱物学科　昭和60年卒　**栃　原　真与子**

私は理学部首都圏同窓会の会計を担当しています。今回は理学部首都圏同窓会の近況についてお知らせします。

理学部首都圏同窓会は、本年６月に30回目の総会を迎えました。同窓生の方からのご寄付や本部からの交付金のおかげで同窓会の会計にも少し余裕ができ、昨年６月には発足当初から現在に至るまでをまとめた「新潟大学理学部首都圏同窓会のあゆみ」を発行し、総会の出席者やご寄付をいただいた方々へお渡しすることができました。第８回総会から恒例となったサイエンスセミナーも、当初は講師も首都圏在住の同窓生に限られていましたが、最近では新潟や首都圏以外の各地からお迎えし、高校生でも理解できるような内容で講演していただき、自分の専門以外の学科の話にも興味を持っていただけるようになりました。また、同窓生のご家族の方も聴講できるようにしました。更に今年からは「夜の懇親会までは出席するのが難しい」というご意見を考慮し、終了時間繰り上げるといった試みも始めています。

総会の出席者も、同窓会発足当時を知る大先輩から2000年以降に卒業された若手まで幅広い年齢層が集まっています。また、首都圏同窓会を運営する幹事の中も女性の比率が高くなり、平均年齢も下がってより柔軟な発想ができるようになってきました。本年11月には、理学部だけでなく他学部の同窓生も一堂に会する全学首都圏同窓会が開催されます。この会は毎年各学部が持ち回りで幹事をしていますが、本年は理学部が幹事学部を担当することとなり、現在、再生医療をテーマとした講演の企画等準備を進めているところです。

日頃、同窓会に興味はあっても知らない人たちの集まりに参加するのは気が引けるのでなかなか行く気にならないという同窓生の方もいらっしゃると思います。首都圏同窓会総会ではサイエンスセミナーの聴講のみの参加ということも可能ですので、まずは、サイエンスセミナーから気軽に参加してみてください。お待ちしています。

最後に首都圏同窓会会計担当の立場から毎年、ご寄付をしていただいている同窓生の皆様、また交付金等活動を支援していただいている本部に一言御礼申し上げます。皆様からのご支援を有効に利用できるよう今後とも様々な知恵を絞って首都圏同窓会の活動を活発にしていきたいと思っております。

学　科　だ　よ　り

数学科

学科長　小島　秀雄

ここ数年間で数学科の教員もかなり交代しました。本年３月には斎藤吉助先生が定年退職されました。斎藤先生は昭和49年６月に本学理学部に着任以来、約41年の長きにわたって本学の教育研究に携わり、数学科の基盤を築きそれを発展させてこられました。斎藤先生は研究者として大変活発な活動をされ、また多くの学生・大学院生を指導され、研究者も多数輩出されました。尚、本年10月31日㈯の午後に新潟東急REIホテルに於いて、斎藤先生のご退職記念祝賀会が開催されます。詳細は数学科出身の皆様にはこの会報とともにご案内が同封されています。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

一方では数学科の教員の若返りが進んでいます。昨年10月より中国ご出身の若手研究者である劉雪峰（りゅう　しゅうふぉん）先生が着任されました。また、本年４月より渡邉恵一先生が教授に昇格しました。数年間続いていた教員の交代もこれで一段落となりました。長年数学科を支えて下さった先生方がご退職されるのはとても寂しいことですが、更に数学科が発展していくように教員一同頑張りたいと思います。

本年３月23日の卒業式で学部学生37名が無事に卒業しました。昨年度卒業生の就職内定率は理学部全体で100％になるという、とても良好なものでした。そして４月に入り、新１年生38名が入学しました。４月11日～12日に毎年恒例の新入生合宿研修を県立青少年研修センターで行いました。今回は初の試みとして、野外炊事を行いました。準備不足のところもありましたが、学生同士の親睦を更に深めることができ、この試みは学生には好評だったようです。その他、本数学科出身の社会人による数学科講演会を７月１日に開催しました。

2015新入生研修旅行

物理学科

学科長　大野　義章

物理学科では、昨年度限りで２名の先生が転任されました。高エネルギー実験グループの川崎健夫先生が北里大学に、物性理論グループの柳瀬陽一先生が京都大学に、４月から活躍の場を移されています。川崎先

生は平成11年12月に着任以来、数多くの国際共同実験に参加され、例えば最近では、原子炉により世界で初めてニュートリノ混合角θ13を測定したDouble Chooz実験で中心的役割を果たされています。また、平成21年10月に着任された柳瀬先生は、５年半の短い在任期間でしたが、パリティ（空間反転対称性）が欠如した結晶に発現する新奇超伝導の研究などによって、平成23年には日本物理学会若手奨励賞を、平成25年には重い電子系研究奨励賞を受賞されています。なお、お二人の転出による空きポストを利用した２名の教員公募人事が現在進められていますので、次号の会報ではその結果についてもご報告できるものと思います。

５月29日㈮に、毎年恒例の「ケルビン祭」が開催され、大学院入試説明会や、学生による各研究室の紹介、学生と教員による対話集会、理学部駐車場をお借りしてのバーベキュー大会が行われました。また、これらの行事に先だって、物理学科の第一期卒業生である中山高さんからの寄付金を基にした「中山賞」、および、同窓会物理学科支部の支援により昨年度創設された「物理学科同窓会奨励賞」が、それぞれ成績優秀な３名の４年生に授与されました。このような表彰は、学生にとって多いに励みになることですが、一方で、全国的に学力低下が問題になるなか、新潟大学の物理学科でも新入生の段階で学習の定着を図る対策の必要性が痛感されます。そこで、昨年度より、１年生前期の早い段階で力学の学習に問題を抱える学生に対して、準個別指導を行う試みを始めました。４年生や大学院生からなるTA（ティーチング・アシスタント）が、自分たちの経験を踏まえて１年生に勉強の指導をしていますが、こちらにも同窓会物理学科支部のご支援を頂いています。指導を受けた学生には、自分の問題点が把握でき、また勉強の習慣付けにもなると好評で、期末試験時の成績の改善にも大きく貢献できたようです。今年度は、対象者をさらに広げて、補習塾の形式で６月から実施を始めています。

昨年、「サイエンスカフェつばめ」という会が誕生しました。平成13年に物理学科を卒業された本田瑞枝さんが中心となって、燕市（旧吉田町）の軽食店「かどや」において、３か月に１回程度、科学に関する話を誰でも気楽に聞くことができる機会が提供されています。回ごとに講師とテーマがかわり、新潟大学の教員による講演や机上実験を中心に、途中、お菓子と飲み物も提供され、高校生からご年配の方まで、お店の収容人数いっぱいの約30名が参加する楽しい会になっています。昨年３月に定年退職された谷本盛光先生が第１回の講師をつとめられ、今年６月で第６回になります。開催情報は「サイエンスカフェつばめ」で検索してください。物理学科のホームページからもリンクされています。

今年2015年、アインシュタインの一般相対性理論は誕生100周年を迎えます。それを記念して、一般相対性理論が持つ意味と関連する研究の最先端にふれていただく市民講演会が全国15会場で開催されます。世界の第一線で活躍する研究者が、宇宙の誕生・ブラックホール・重力波などの話をまじえて、やさしい言葉で語りかけます。新潟では、以下の日程での開催が予定されています。なお、新潟以外の開催予定も含めた詳しい情報については、ホームページ http://www.gw.hep.osaka-cu.ac.jp/Gmunu100/ をご覧下さい。

一般相対論誕生100周年市民講演会（新潟会場）の開催について

日時　平成27年10月17日㈯　午後（予定）
場所　新潟大学五十嵐キャンパス
　　ライブラリーホール（予定）
講師　二間瀬敏史（東北大学教授）、
　　大原　謙一（新潟大学教授）

化学科

学科長　古川　和広

新年度がはじまり化学科では昨年度と同様、16名の教員と２名の職員、計18名で、学生の教育から生活までの指導を行っております。

学生の動向につきましては、本年の３月末には39名の４年生が無事卒業し、21名が教員、公務員、企業等へと就職を決め、18名が大学院へと進学し、新たな環境で活躍すべく切磋琢磨されていること思います。そしてこの４月には卒業生と入れ替わり、入学試験を乗り越えた１年生41名と３年次編入生１名が新たに化学科に加わり、教員および職員共々で総勢158名の学生（１年生41名、２年生42名、３年生42名、４年生33名）と新たな気持ちで大学での活動がはじまっております。

化学科では、１年生から３年生までの学年には「アドバイザー制度」があります。各学年から２から４名ほどの学生が各教員に割り当てられ、１学期と２学期のはじめに直接面談をおこなっております。教員は各学生の学習の状況を確認するとともに、進路や生活面までの相談にも対応しております。

新１年生も４月６日の入学式翌日のガイダンスに引き続き、さっそくこのアドバイザー面談が行われました。教員と個別に直接接触する機会がもたれ、高校とは違う教員との繋がりを感じられたことと思います。

４年生になると学生は各教員の研究室に配置され、より親密な接触を持つこととなります。研究室には大学院生もおり、いっしょに机を並べ、毎日きびしい研究の議論が行なわれる生活に入ります。

化学科では教員と学生および学生間の結びつきをよりスムーズにするため、アドバイザー制度以外にいろいろな行事が計画されております。これは教員によるものもありますが、学生が主体となって計画されているものもあります。４月15日には教員、職員と１年生、３年次編入生が参加する「新入生歓迎懇談会」が行われ、４月18日には教員と１から４年生に加え大学院生も参加する「タテコン」が行われております。

今後も「ソフトボール大会やビール祭り」が学生主導で計画されております。教員からは、学部生から化学科での教育の改善に関わる意見を聞く「学生と教員との懇談会」や、学部生と大学院の就職や進学などの将来の進路について共に考える「進路説明会」も計画されており、学生間および学生と教員の結びつきがより親密になっていくことと思います。

教員と職員は今後も化学科学生が教育および研究の目的を貫徹できるよう、学習および生活両面から指導していく所存であります。化学科同窓会の皆様においては、今後ともご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

生物学科

学科長　酒井　達也

生物学科の近況をご報告します。先ず教員の異動では、「生物種特異的な糖鎖の構造解析と糖転移酵素の研究」を専門とする鈴木詔子助教が11月より着任しました。５年の任期付きですが、長束先生と連携しながら、糖鎖研究及び生化学教育に携わっていただいております。

学生は３月に24名が卒業しました。その内訳といたしましては、大学院進学13名、就職９名、公務員・教員・他大学等の再受験２名、となりました。また４月に21名の新１年生と２名の３年次編入生が入学いたしました。新入生には生物学科に早く馴染んでもらおうと、４月24日に恒例の新入生と教員との懇談会、４月23～24日に１泊２日の佐渡臨海実験所における新入生研修会を行いました。泊まりがけの研修会は新入生全員が参加し、佐渡の自然と生物にふれ合い、クラスメート間の親睦を深めることができました。７月にはさらに生物学科全学年合同の親睦会を実施する予定です。

生物学科の教育面では、今年の１年生からカリキュラム変更が行われます。大きな目玉は、平成29年度より３年生２学期を対象にした新規必須科目「生物学総合演習」の開講です。これは卒業研究が始まる半年前に研究室の生活を体験してもらい、小人数の実習を行いながら研究室の先輩や先生とより密接な会話をして、翌年の卒業研究課題の選択ばかりでなく進路決定にも役立ててもらうことを意図しています。現在、既存の講義及び実習の整理や前倒等の準備作業を進めております。

生物学科同窓会との関係では、10月25日㈯に新潟大学五十嵐キャンパスにて「生物学科からの出発と展開：卒業生と在学生のつどい」をタイトルにした同窓会イベントを開催しました。卒業生３名を講師に迎えて現在の活躍の様子を講演していただき、現職員とその研究内容、現在の学科設備についての紹介など、卒業生と現役学生、教員との親睦を深める大変有意義な会になりました。

地質科学科

学科長　高澤　栄一

地質科学科では、今年３月に４年生29名が卒業し、うち７名が大学院に進学しました。また、博士前期課程を７名が修了しました。卒業生に対する地質系民間企業や公的機関・団体からの求人は多く、これらの業種に就職する卒業生は年々増加しています。４月には１年生25名と３年次編入生１名を新たに教室に迎えました。また、昨年10月から教室事務員の大竹さんの代替職員として西村さんが着任しました。

地学普及を目的として、大学院生と学部学生が中心となり、６月には「地質の日 サイエンスフェスティバル in 五十嵐キャンパス」を、10月には新潟大学WeeKの「地質まつり」を企画し、地質の面白さを伝える各種イベントを行いました。また、「地質科学科の未来に向けて：卒業生と在校生の集い」では、地質技術者・教育者・普及者として活躍する卒業生と在校生がオーラル・ポスター発表等を通して交流し合いました。

11月の理学部コロキウムでは、椎野先生が「絶滅生物の形態進化　究極の無気力生物『腕足動物』の巧妙な機能デザイン」というタイトルで研究紹介を行いました。２月にアオーレ長岡で開かれた「科学の祭典」では、高橋先生が「河原の小石で岩石標本を作ろう」というテーマで、小中学生向けの実験体験企画を行いました。

国際交流では、９月に協定校である台湾の國立成功大学の野外実習に当学科の３年生２名、院生１名、教員１名が参加しました。また、10月末には、海外の協定校から27人の研究者・大学院生を招いて、国際シンポジウム「アジアの地球史Ⅱ」を開催しました。このような交流活動によって、学生・院生の視野が着実に 広がっています。

今年度から大学内の予算配分が大幅に変更され、学科予算が大幅に減少しました。しかし、「フィールドワークのできる人材（野外地質調査能力の高い人材）を育てる」を第一の教育目標とする点に変更はありません。新たに、３年生の野外実習Ⅲ（進級論文）の調査期間を６月～７月と８月の２回に分けて実施し、合わせて教員が学生を毎日調査地へ送迎する試みにも取り組みます。今後とも地質科学科への暖かいご支援を皆様から賜りたくお願い申し上げます。

自然環境科学科

学科長　松岡　史郎

自然環境科学科では、平成26年度の３月に32名の学部４年生を輩出しました。また同じく平成26年度末をもって髙橋正道先生と彦坂泰正先生が退職されました。髙橋先生は、2000年に着任されて以来、本学科の教育・研究に多大な貢献をされました。ご退職後もフェローとしてC棟１Ｆに実験室を構えて研究活動に励んでおられます。彦坂先生は2009年のご着任後から、本学科の物理分野の教育と研究にご尽力いただきました。この４月より富山大学薬学部に転出され、教授として活躍されています。本学科の物理学分野では４月より副島浩一先生が教授に昇任されましたが、彦坂先生の転出に伴い、物理学分野に新たな教員が配置されるまでは、当面お一人でこの分野を引っ張っていただくことになります。

一方この４月より、本学科では33名の新入生と２名の３年次編入生を迎えることになりました。４月10日には早速歓迎会が開かれ、自己紹介の時間では、一日も早く学科の仲間達と打ち解けようと、全員しっかりと自己アピールをしていました。ゴールデンウイーク明けには恒例の新入生研修が海辺の森キャンプ場で行われ、皆で協力し合いながら火をおこし、さらに「必修」である「飯盒炊爨」によるご飯と手作りのおかずを食べながら、さらに友人同士の絆を深めあっていました。また５月末には、「自然とふれあい他学年との交流をはかる」ことを目的に３年生の企画による遠足も行われ、60名ほどの学生が参加しました。その３年生ですが、夏頃になると就活を意識し出す様で、７月には学科卒業生による就職後援会も企画されています。

平成６年の学科発足から20年以上が経過して、学科内の教育・研究体制もずいぶん様変わりしています。本学科だけでなく理学部を含む大学全体がこの数年で大きく変わろうとしていますが、組織がどのように変わろうと、この学科に一時でも所属して共に学び、遊び、喜び、時には喧嘩しながら深めた絆はいつまでも大切にしたいものです。

理学部同窓会2

理学部同窓会は、1991（平成３）年10月27日、各学科同窓会のゆるやかな連合体として発足しました。その後、2004（平成16）年８月28日の臨時総会にて、各学科同窓会の統合、理学部同窓会への一本化が図られました。そして本年、25周年記念事業として、記念植樹・同窓会名簿の発行と同時に、記念式典と記念講演会・記念祝賀会が催されました。

⊙ これまでの歩み

1953（昭和28）年３月、理学部第１期生卒業。それまで西大畑にあったキャンパスが、1970（昭和45）年５月に五十嵐地区へ移転。1986（昭和61）年、理学部首都圏同窓会が設立。1991（平成３）年10月、理学部同窓会発足。初代同窓会長に渡辺昌吾氏（化学）が選出。2001（平成13）年、第二代同窓会長に中山輝也氏（地質）が選出。2004（平成16）年４月、新潟大学は国立大学法人へ移行。同年８月臨時総会で各学科同窓会が統合、理学部同窓会に一本化。2006（平成18）年４月、新潟大学全学同窓会設立。各学部の同窓会長は全学同窓会理事に就任。2010（平成22）年６月、理学部同窓会総会にて、第三代同窓会長に野本憲雄氏（物理）が選出。

⊙ 記念式典・講演会・祝賀会の開催

日　　時：平成27年７月11日(土)　14：15～19：30
場　　所：ホテルラングウッド新潟
参加者数：107名

(1)　式典次第

- 会長挨拶（野本　憲雄　氏）
- 来賓祝辞（高橋　　姿　新潟大学長）
- 実行委員長挨拶（田澤　純一　氏）
- 寄贈品目録贈呈

会長挨拶（野本　憲雄　氏）

来賓祝辞（高橋　　姿　新潟大学長）

実行委員長挨拶（田澤　純一　氏）

5周年記念事業

(2) 講演会

講演１ **高橋　　姿 先生（新潟大学長）**
「新潟大学の現状と展望」

講演２ **鈴木　厚人 先生（岩手県立大学長）**
「素粒子に魅せられて」
：大学時代からの50年を顧みる

●略　歴●
1969年３月　新潟大学理学部物理学科卒業
東北大学副学長、高エネルギー加速器機構長など歴任

●専　門●
素粒子物理学・ニュートリノ物理学、2005年に地球ニュートリノの検出に世界で初めて成功し、ニュートリノ地球科学という新研究分野を創始。

●受　賞●
日本学士院賞、紫綬褒章、仁科記念賞、朝日賞など多数
ノーベル物理学賞の日本人有力候補の一人。

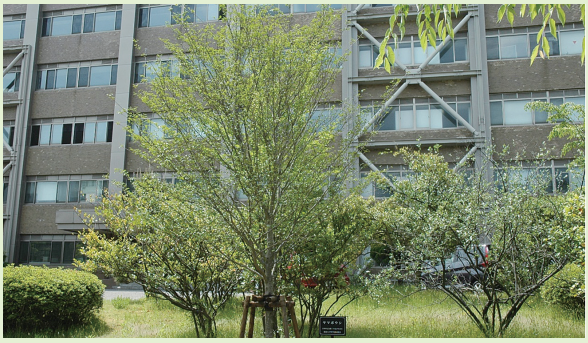
(3) 祝賀会

来賓の方々を含めて、70名が参加され盛大に行われました。

◉ 理学部同窓会名簿の発行

◉ 記念植樹の植栽

平成27年３月24日㈮ヤマボウシ一本とイチョウ五本が植栽されました。



ヤマボウシ

イチョウ
平成27年５月15日撮影（植栽　平成27年３月24日）

25周年に寄せて

前会長　中　山　輝　也（第８回地質鉱物学科卒）

同窓会設立25周年誠におめでとうございます。

昭和の終わり頃から平成にかけて、各学科の同窓会を統一すべく、ほとんど毎週各学科卒業生代表が、協議を重ね、ようやく発足しました。

早いもので25年が経ちました。私の前任者の渡辺会長は献身的なご努力で、同窓会をようやく軌道に乗せかけたとき、急逝されました。その後、先輩の皆様がこの同窓会を持続させるため、化学科を中心に熱心に検討されました。そこへ今までとの変化を求めた物理学科・生物学科などの先輩達に企業経営者ということで推され、やむを得ず引き受けたのでした。私が学んだ地質鉱物学科は、理学部でも、当時は数学・物理などに比べ、弱小学科であり、学部を代表する会長などの任にあらずと考えましたが、お引き受けした以上は、理学部だけではなく、新潟大学のため、努力すべきと思いました。

さて、新潟大学が国立大学法人化の後、全学同窓会が発足しました。その目的は、大学を経済面でも支援するためです。会は各学部同窓会長が理事としての運営ですが、当時、物理学科出身の長谷川彰さんが学長で、そのお役に立てればと思いました。

医学部、工学部、農学部などは、学部同窓会で潤沢な資金を抱いておりますが、私共は学科中心の組織だから仕方ありませんが、学部としてまとまった上で何とかしなければと思いました。

一方、全学同窓会では、一理事として全新入生から一定額入会金の徴収を理事会で提案しました。すったもんだの挙句、それでも全員一致で決まったのですが、可能な学部からやるという付帯条件が付きましたので、その後は実施されておりません。

もし、理事会決議通りその時点で徴収しておりましたら、旧帝大など伝統ある大学同窓会に追いつかないまでも、何か問題が生じたとしても、全学同窓会として大きな自信になっていたと思います。

現在は理学部の卒業生の進路は、教職や研究職中心ではありません。野本会長も理解されており、それこそ、産学官全てに理学部出身の人材がおり、連携して、25周年を機に一層の理学部同窓会充実を図り、さらには全学同窓会から「全学」を外し、文字通り「新潟大学同窓会」のもとに新潟大学の更なる発展のための礎となるべき覚悟を持たねばならないと思います。

支部だより

数学科

支部長　樋浦　卓嘉

平成27年度は、５月13日に役員会を開催し、27年度事業計画26年度決算、27年度予算を決めました。支部内の役員に若干の異動がありますが、近く開かれる予定の代議員会、支部総会の了承を得て実施したいと考えています。

今年度の数学科支部の最大行事は10月31日㈯に開催が予定されている斉藤吉助先生の退職記念祝賀会です。詳しくは会報に同封されている案内をご覧いただきたいのですが、祝賀会の実行委員会を昨年10月に立ち上げ、準備を重ねているところです。斉藤吉助先生は41年もの長きにわたり、数学科で教鞭をとられ、ご指導を受けた同窓生も多いことと思います。是非とも大勢の方々のご出席をお願いいたします。

役員については、数学科支部の役員の常任理事で、若干ですが若返りを図ることができました。特に若い支部会員の皆様に、支部活動に関心をもっていただき、母校の支援にご協力いただきたいと考えています。

支部会員の皆様には、これまで同様数学科支部にご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

物理学科

支部長　坂井　　章

今年度の当支部の事業としては昨年度と同様に、学生への教育支援の一環として「物理学科同窓会奨励賞」の副賞としての図書券を、５月21日に大野物理学科長様の研究室にお伺いしてお渡ししてきました。５月28日開催のケルビン祭で受賞学生に贈呈されました。併せて、学部４年生や大学院生が学部１年生に対して勉学の相談相手になってもらう時に係る費用の一部を前年度と同様に負担します。

理学部同窓会25周年記念行事の開催にあたり、記念事業実行委員として当支部の岩見先生から１年以上前から開催準備に協力していただきました。岩見先生をはじめ関係者の方、ご苦労様でした。

支部役員の交替がありました。小林先生に替わって木山先生から幹事になっていただきました。小林先生、

長い間本当にありがとうございました。これからもご指導、ご支援をお願いします。木山先生からは支部活動の活性化についてご尽力をお願いします。

化学科

支部長　畠野　弘通

支部役員の方々からご協力をいただき、理学部同窓会幹事会や総会、全学同窓会交流会などに参加してまいりました。独自の活動は、昨年度も、できませんでした。

社会は大企業を中心に好景気ですが、私立大学は2018年問題、法人大学は３つのグループ化を前に、ともに生き残りをかけ、改革、競争を迫られています。文科省の方針で、文系、教養系や基礎科学が縮小の方向にもあり、新潟大学の今後が気にかかります。はやぶさ２号は小惑星を目指しているが、身近な地震の予知は、未だ、できません。自然の奥深さと理学部の重要さを感じます。学部行事に参加するなど、できる範囲で、母校のご支援してまいりたいと思っています。

生物学科

支部長　荒木　　勉

同窓生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

例年、変わり映えのしない生物学科支部でしたが、昨年は少し変化がありました。懸案だったOB会員と学生との懇談会を開催いたしました。新潟大学 week期間中の10月25日に、生物学科の学生向けキャリア支援事業に、同窓会としても相乗りをさせていただき、学生・院生と同窓生との合同の講演会と懇親会を催しました。同窓会の初めての事業でしたが、同窓生12名、学生・院生42名、教職員11名の参加を得ることができました。初めての企画にしては、65名の方々にご参加いただいたことは、十分に評価できるものと思います。

今年度も、同様の事業を開催したいと考えておりますので、多くの同窓生の皆様のご参加をお願いいたします。詳細は、生物学科のホームページなどでお知らせいたします。

また、昨年度までに、新たに代議員に４名の方々から就いていただいておりますが、定数増に伴う１名分を事務局の長谷川さんに兼務していただいております。役員の新旧交代のこともありますので、是非多くの皆様にご参加いただきたいと思います。

地質科学科

支部長　田澤　純一

地質科学科の「卒業生と在校生の集い」が昨年10月18、19日に開かれ、名和（宮下）由香里（39回卒）、長谷川怜思（49回卒）、市橋弥生（57回卒）の３氏が職場紹介をしました。懇親会“秘酔”には田村伸夫幹事長（20回卒）ほか数名の卒業生も参加し、在校生と歓談しました。

新年会は、今年２月７日に関屋田町の「力鮨」で開かれました。最長老の熊谷　忍氏（４回卒）から最年少の本田孝子・本田万葉香氏（55回卒）まで18名が出席し、各自近況と今年の抱負を語り、旧交を温めました。長谷川美行・松岡　篤両先生も出席されました。ほんの一時とはいえこのような機会に一同昔の学生時代に戻れるのは嬉しいことです。

平成26､27年度の「土木地質学」は小野田　敏氏（31回卒）が担当します。

同窓会名簿が７月に発行されますが､地質科学科では卒業年次ごとに連絡幹事を明記しました｡まずは同学年での集まりを持ち､同窓会の存在意義を確かめて下さい。

平井明夫氏（20回卒）が昨年12月21日に亡くなられました。首都圏同窓会幹事を務めるなどこれまでのご尽力に深く感謝しご冥福を祈ります。なお、今年度から支部予算の慶弔費をなくすことになりました。

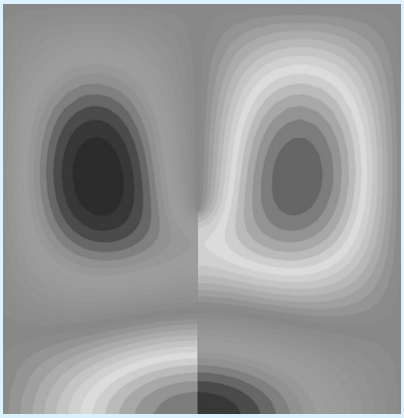
自然環境科学科

支部長　尾原　祥弘

今年度も、例年と同じように、総会と懇親会の開催、後輩支援事業の２つを柱に活動しています。まず、総会と懇親会ですが今年は10月10日㈯に新潟大学を会場として行う予定です。今年は自然環境科学科で長年学生を指導して下さった先生の講演や対談を企画しています。同窓生の皆様も久しぶりに懐かしい先生の講義を受けに来てはいかがでしょうか。次に、後輩支援事業ですが、今年は７月４日㈯に学生の就職活動支援として講演会を行いました。講師は自然環境科学科OBの県職員２名と一般企業勤務２名にお願いしました。当日は、講師からそれぞれの職場の紹介、その職業に就いた理由など様々な内容の話があり、学生からは積極的に質問や意見が出て、今回も大変有意義な講演会となりました。今後も、学生の声を聞きながら、卒業生を講師とした講演会等の支援を行いたいと思います。また、現在ホームページのリニューアルに向け準備を進めています。新しいホームページで同窓生の皆様に同窓会の情報がより分かりやすく提供できるようになればと思っています。最後になりますが、今後も同窓会の活動にご理解とご協力をよろしくお願いします。

研究室紹介

数学科　劉　雪峰



有限要素法による固有関数の計算結果

本研究室は有限要素法を中心にして、数学の理論解析と実際の応用両方で研究を積極的に展開しています。有限要素法は様々な微分方程式を解くための強力な道具です。数学の分野では、Navier-Stokes式などの非線形微分方程式の解の安定性の解析が多くの数学研究者の夢です。本研究室では、有限要素法の厳密な計算手法と誤差評価理論を開発して、「精度保証付き数値計算」という新たな手法の一部として、非線形微分方程式の解の計算機援用証明を挑戦しています。

有限要素法の高い汎用性によって，熱伝導や，電磁場，津波のシミュレーションなど幅広い分野に使用されています。本研究室は半導体材料分野の企業と連携して、ウェーハの平坦度や抵抗率の測定などに使用される有限要素法の計算法を開発しています。これによって、産業分野とのコネクションを作って、研究成果を社会に還元することができると思います。

理学部同窓会整備・振興寄付金　拠出者御芳名（敬称略）　平成27年６月現在

● 数学科

戸井田　正　小嶽　稔　伊東　孝芳　中井　良
手代木　健　堀上　邦彦　若林　広明　上川　芳浩
種村　幸夫　樋浦　卓嘉　吉成　毅　西村　浩子
家井　園　寺尾　芳樹　福田　世喜　森戸　浩美
岩原　侑　中村　親伊　那須野恭子　馬場　宏
土屋　和平　井上　昭導　津田　之彦　林田　秀一
山崎　道子　松田　秀夫　佐藤　政士　玉田　鉄平
目黒　俊雄　金子　正義　富永　久敏　武田　宏樹
阿部千鶴子　金城　義行　竹内　正文　平澤　起也
伊藤　道一　永井　健樹　浅野　学　杉山　倫
大澤　正　本家　武子　米沢　新司　関野　文瀬
堀　行　井村　悦子　細野　晃　遠藤真奈美
熊野　久雄　加藤　三郎　三浦　正司　佐々木潔朗
吉川　益男　西埜　覚　桑原　弘秀　斎藤　裕
伊藤　通明　竹内　照雄　工藤　孝徳　高島奈津美
小田　武夫　加藤　俊男　田中　環　高橋　峰洋
阿部　常雄　安藤　勝美　佐藤　浩一　柄澤　涼司
武藤日出雄　日比登史男　白石　勝夫　逢坂　直哉
藤森　守

● 物理学科

中村　久子　鈴木　守夫　若林　恒夫　矢代　博行　清野　義敬
青津　直　野本　憲雄　白川　保憲　佐藤　弘　植松　聖人
金井　芳夫　本間　正宣　水本美紀男　工藤　幸人　宇治　敦史
貝沼　次郎　小林　迪助　小池　隆昭　中沢　陽　宮川　健太
森山　久夫　豊田　幸雄　桐生　正尚　伊藤　嘉亮
駒野　庄平　宮下　洋治　阿部　信夫　水谷　先宏
小林　修　内藤　聡　漆崎　道清　木村　祐伸
佐藤　純一　山口　喜啓　上林　俊一　風間　睦勇
赤塚　節　橋本　俊彦　高見沢一男　酒井　哲
小島　俊郎　渋谷　明　佐藤　晋　黒沢　昌基
高津　雄造　寺前　直子　江川　直人　山田　高嗣
熊谷　周三　渡辺　俊英　野村　英治　志賀荘一郎
土田　登　垣内　信夫　時武　康雄　山崎美穂子
多田　健一　坂井　貞夫　長谷川正志　山口　隆
関　正　藤井　博　鈴木　俊男　二戸　祥之
寺井　宏　霜鳥　達雄　水谷　洋二　菅野　義博
明比　範夫　贄田　昭雄　石川富二男　北見　秀樹
小林　一男　高木　広道　前田　義憲　星野　和也

● 生物学科

武田　信昭　星野嘉恵子　藤原　昌晴　頓所　裕史
平林　光雄　細野　正道　大内　弘徳　松本　真実
横山　節哉　山岸伊佐雄　石坂　均　櫻井　幸枝
伊東　和江　久和　彰江　磯部　浩伸　村田　浩一
細谷　安彦　加藤　俊成　宮崎　浩　小林めぐみ
内田　善晤　荒木　勉　笹川　通博　野口　光生
北田　泰之　別府　英宣　伊藤　達朗　長沼　裕平
長谷川　博　小林　幹雄　杉本　健吉　星　猛夫
本間　恒子　富永　弘　高橋直一郎
大滝　照成　高木　修子　猪熊　正則

● 化学科

鈴木　俊雄　後藤　邦男　佐々木裕雄　福島　幹雄　斎藤　博之
伊藤　良夫　半田　進　稲川信之助　坂本　憲司　金子　洋介
村川　恭平　石塚　紀夫　渋谷　貞雄　本間　悟　赤間　智也
片桐　啓三　松尾　昭夫　石川　勝司　東田　良和　小林　裕之
渡辺　初男　岡本　紀子　殿内　重政　山口　衛　村山　明弘
森谷　和子　赤沢　宏　間　和彦　佐山　久　安田健一郎
三屋　彰　村山　幸夫　中山　久雄　羽深　等　中林　正名
長尾　典　大関久美子　鈴木　澄廣　谷口　和史　山田　幹
小川　勝　谷川　義夫　中山三喜栄　石田　秀一　高橋　聖美
松澤　秀雄　青木　英二　土屋眞知子　山岸　良一　渡辺　勲
村松　彰夫　宮下　育子　伊藤　光仁　高橋　邦明　小林みどり
松澤　澄江　久保田芳宏　齋藤　清　青柳　義昭　松岡美沙子
永井　清　吉川　義雄　星野　洋子　三ツ寄敏雄　根岸　裕太
佐藤　茂司　関根　俊明　畠野　弘通　川俣　治　佐藤　大輔
井古田仁司　関根　玲子　丸山　雅司　藤纏　崇　坂口　俊輔
花見　英男　小林　和雄　渋谷　豊子　橋本　雅文

● 地質科学科

倉又　孝夫　吉田　滋　笹川　一郎　高松　正敏
熊谷　忍　山野井　徹　川島　信行　佐藤　壽則
大橋　恒夫　西片　武　外山　裕一　新井　孝志
佐藤　仁　沼田　誠　伊豫田成子　渡部　直喜
畑中　博文　小村　寿夫　関谷　一義　冨加見昌孝
山岸　俊男　滝澤　洋雄　赤松　靖晃　竹内　均
石橋　輝樹　佐々木　正　中川　充　田利信二朗
加藤　靖夫　高橋　明　横堀　正純　満川　知代
近藤　和久　佐藤　憲司　喜多　孝行　橋本　瑛久
外山　正樹　山田　守　栃原真与子　小高　光
牛沢　克己　近藤　巻広　田中　力　日野原達哉

● 自然環境科学科

廣井　聡　松橋　麻里　畑澤　尚宏
姫田　丞　齋籐　真穂　小山　直也

別表１

平成26年度　理学部同窓会決算

一般会計

	費目	予算額(円)	決算額(円)	比較	説明
収入の部	終身会費・寄付金	5,000,000	5,293,000	293,000	
	1）終身会費 新入生	4,000,000	4,220,000	220,000	211名＊20,000円
	2）寄付金 正会員	1,000,000	1,073,000	73,000	正会員からの同窓会支援費等寄付金、313/名（3/9現在）
	雑収入	45,584	100,818	55,234	預金利息他
	繰越金	804,416	804,416	0	
	合計	5,850,000	6,198,234	348,234	

	費目		予算額（円）	決算額（円）	比較	説明
支出の部	会議費		250,000	224,457	−25,543	諸会議交通費、会場費他
	広報費	「会報」発行費用	700,000	366,660	−5,792	理学部同窓会誌「会報15号」（7000部）印刷代（366,660）
		「理学部は今」発行費用		325,080		理学部機関誌「理学部は今」7000部）費用（325,080）
		その他		2,468		HP運営費
	理学部支援事業費		600,000	300,000	−300,000	卒業祝賀会助成(300,000)
	名簿編集費		20,000	0	−20,000	
	負担金等		455,000	452,800	−2,200	全学同窓会賦課金
	支部交付金		460,000	460,000	0	50,000＊６＋160,000＝460,000
	支部事業補助費		400,000	300,000	−100,000	生物学科、自然環境科学科、地質科学科へ各10万円助成
	事務費・通信費		200,000	69,543	−130,457	光熱水費、郵送料、払込手数料、印刷費、消耗品等
	事務局費		500,000	550,100	50,100	人件費
	会員宛郵送費		800,000	820,126	20,126	5661名（自然環境科除く）＋自然環境科 42,476（518名）、郵送用封筒他資料印刷費
	人件費		200,000	192,000	−8,000	後援会パート手当
	予備費		265,000	0	−265,000	
	小計		4,850,000	4,063,234	−786,766	
	積立準備金		1,000,000	1,500,000	500,000	特別会計へ繰り入れ
	合計		5,850,000	5,563,234	−286,766	

収入額合計－支出額合計＝次年度繰越金
6,198,234円－5,563,234円＝635,000円　　次年度繰越金　635,000円

特別会計

	費目	収入	支出	残金	
特別会計	繰越金	13,000,000	1,500,000	11,500,000	定期預金1,500,000解約（元金は25周年事業費へ、利息は一般会計に組み入れ）
	Ｈ26年度積立金	1,500,000	0	1,500,000	定期預金（利息は一般会計に組み入れ）
	計	14,500,000	1,500,000	13,000,000	

別表２

平成27年度　理学部同窓会予算

一般会計

	費目	予算額(円)	前年度予算額(円)	比較	説明
収入の部	終身会費・寄付金	5,000,000	5,000,000	0	
	1）終身会費 新入生	4,000,000	4,000,000		200名＊20,000円
	2）寄付金 正会員	1,000,000	1,000,000		同窓会整備・振興寄付金等
	雑収入	65,000	45,584	19,416	利子、その他
	繰越金	635,000	804,416	−169,416	現金(13,572）＋第四(352,730）＋郵便局(8,188）＋振替口座(260,510)
	合計	5,700,000	5,850,000	−150,000	

	費目		予算額（円）	前年度予算額(円)	比較	説明
支出の部	会議費		250,000	250,000	0	諸会議交通費　、会場費他
	広報費	(「会報」発行費用)	700,000	700,000	0	理学部同窓会誌「会報16号」印刷代
		(「理学部は今」発行費用)				理学部機関誌「理学部は今」費用他
		（その他）				ＨＰ運営費
	理学部支援事業費		700,000	600,000	100,000	理学部からの要請による支援事業、卒業祝賀会費補助
	名簿編集費		20,000	20,000	0	
	負担金等		455,000	455,000	0	全学同窓会賦課金
	支部交付金		460,000	460,000	0	50,000＊6+160,000
	支部事業補助費		400,000	400,000	0	
	事務費・通信費		100,000	200,000	−100,000	光熱水費、郵送料、払込手数料、印刷代、消耗品等
	事務局費		550,000	500,000	50,000	事務局人件費
	会員宛郵送費		800,000	800,000	0	会員宛会報などの送料他
	人件費		200,000	200,000	0	後援会パート手当
	予備費		65,000	265,000	−200,000	
	計		4,700,000	4,850,000	−150,000	
	積立準備金		1,000,000	1,000,000	0	特別会計へ繰り入れ
	合計		5,700,000	5,850,000	−150,000	

特別会計

	費目	収入	支出	残金	説明
特別会計	Ｈ26年度までの繰越金	13,000,000	0	13,000,000	定期預金（利息は一般会計に組み入れ）
	Ｈ27年度積立金	1,000,000	0	1,000,000	定期預金（利息は一般会計に組み入れ）
	計	14,000,000	0	14,000,000	

事　務　局　よ　り

1、同窓会「役員会・代議員会合同会議」開催

平成27年７月11日㈯駅南キャンパス「ときめいと」において役員会・代議員会合同会議が開催された。

◉議　事

(1)　平成26年度事業報告

(2)　平成26年度決算報告

(3)　平成26年度会計監査報告

- 事業報告及び決算報告、会計監査は一部修正のうえ、報告のとおり承認された。

(4)　平成27年度事業計画(案)、平成27年度予算(案)

- 提案のとおり承認された

2、同窓会創立25周年記念事業

(1)　記念植樹

- ヤマボウシ１本、イチョウ５本を平成27年３月末に理学部校舎周辺に植樹した。

(2)　記念式典・記念講演会・祝賀会

- 平成27年７月11日㈯、ホテルラングウッド新潟において記念式典を挙行、続いて高橋姿新潟大学長、鈴木厚人岩手県立大学長による記念講演会が、その後、同会場で祝賀会が盛大に開催された。

(3)　会員名簿（改訂版）を平成27年７月22日に発行した。

3、広報活動

- 正会員に会報15号はじめ雪華などの広報紙を送付した。

4、理学部からの要請にもとづく各種支援

- 理学部卒業祝賀会の経費を補助した。

5、全学同窓会との連携について

- 賦課金・分担金を応分負担し、財政的に貢献した。
- 理事会、運営委員会に参加し、運営に貢献した。

6、会費及び寄付金について

- 後援会と連携し、平成26年度新入生より会費を徴収した。
- 財政力強化のため整備・振興寄付金のお願いにより、多くのご寄付を頂いた。

7、その他

(1)　平成26年度決算報告書・平成27年度予算書（別表１，２）

(2)　会報について

- 会報16号は数学科支部が発行を担当、
- 会報17号は自然環境科学科支部が担当の予定。

2015年度（平成27年度）理学部同窓会役員名簿

役職	支部	氏名	役職	支部	氏名
会長	物理学科	野本　憲雄	幹事	化学科	本間　悟
副会長	数学科	樋浦　卓嘉			田辺　薫
	物理学科	坂井　章		生物学科	清水　榮一
	化学科	畠野　弘通			長谷川　博
	生物学科	荒木　勉			堀　昌明
	地質科学科	田澤　純一		地質科学科	田村　伸夫
	自然環境科学科	尾原　祥弘			豊島　剛志
	首都圏	矢口たみ江			渡部　直喜
幹事長	地質科学科	渡部　直喜		自然環境科学科	畑澤　尚宏
幹事	数学科	樋浦　卓嘉			加藤　直之
		武石　文雄			桜井　寿之
		田中　環		首都圏	矢口たみ江
	物理学科	木山　喜隆			飛鳥　滋
		鈴木　重行			安藤　勝利
		本間　正宜	監事	物理学科	岩見　敏明
	化学科	三ッ寄敏雄		生物学科	藤間　真紀

転退職された先生（平成27年３月に）

退職された先生

数学科　斎藤　吉助（教授）
昭和49年６月～平成27年３月
在職期間：41年
専門分野：バナッハ空間論、作用素論、作用素環論

自然環境科学科　髙橋　正道（教授）
平成12年10月～平成27年３月
在職期間：15年
専門分野：植物分類学、古植物学、花粉学

転出された先生

物理学科　川崎　健夫（准教授）
平成11年12月～平成27年３月
在職期間：16年
専門分野：高エネルギー物理学
転出先：北里大学

物理学科　柳瀬　陽一（准教授）
平成21年10月～平成27年３月
在職期間：６年
専門分野：物性理論
転出先：京都大学

自然環境科学科　彦坂　泰正（准教授）
平成21年９月～平成27年３月
在職期間：６年
専門分野：原子分子物理学
転出先：富山大学

新潟大学理学部同窓会（事務局）
住　所　〒950-2181
新潟市西区五十嵐２の町8050
新潟大学理学部内
ＴＥＬ　025-262-6261　ＦＡＸ　025-262-6261
E-mail　ridoso@ad.sc.niigata-u.ac.jp
ＵＲＬ　http://www.ridoso.jp/

編集後記

今回は理学部同窓会25周年記念号として、記念行事の写真をふんだんに取り入れてみました。昭和28年３月に理学部第１期生が卒業してから今年の春で第63期生が巣立ちました。理学部の長い歴史の中で同窓会も次第に整備されてきたようです。編集担当は数学科支部でしたが、皆様のご協力と同窓会事務局の尽力のおかげで無事に皆様のお手元にお届けすることが出来ました。原稿をお寄せいただきました関係諸氏に心より感謝申し上げます。